

# 住と健康 セカンドライフ 自分らしく生きる 2023

セカンドライフ

2023

自分らしく生

① 医療法人医新会 よろずクリニツク（鳥取市美萩野1丁目）

「病気を治すことが第一」と  
先進的ながん治療に取り組  
む萬院長

体の投与ではなく、患者の免疫で抗体を作り出すため、新WT1樹状細胞療法と同様に副作用が少なく、高い持続効果も期待されている。

どちらの療法も治験が行える病院は少なく、先進の治療に望みを託す患者が全国から同クリニックに集まる。萬憲彰院長(47)は「患者さんには時間もお金も限られていい。それぞれに合わせたベストの治療を選び提供

◆ する」と力を込める

新日本海新聞社は高齢者の暮らしに役立つ情報

誌「セカンドライフ20  
23」を発行した。同誌に

掲載した施設や企業の特徴やサービス内容などを4回にわたって紹介する。

## 患者に最適ながん治療

日本人の死亡原因で最も多い病気「がん」。先進的な治療や検診などにいち早く取り組む同クリニックは「病気を治すこと第一」との思いから、患者の負担軽減を図りつつ、最適な治療を提案する。

現在、力を入れているのが「新WT1樹状細胞療法」と「分子標的ワクチン療法」だ。新WT1樹状細胞療法は、体内的免疫細胞の一種である「樹状

細胞」にがんの目印を認識させ、がん細胞を攻撃できる免疫細胞に目印を伝え狙い撃ちさせる療法。使用するWT1ワクチンは大阪大で開発されたもので、どのがんでも発見している共通の抗原となる。自分の免疫は目印のがんだけをターゲットに攻撃するため、副作用がほとんどないという。もう一つが分子標的ワクチン療法。従来の抗がん剤治療は正常な細胞も傷つけてしまうが、分子標的療法はがん細胞だけをピンポイントに攻撃できることが特徴。また、この療法では標準治療で使う分子標的薬とは異なる、人工的に生成した抗

A photograph of a middle-aged man with dark hair and a beard, wearing glasses and a black t-shirt. He is seated at a desk, looking directly at the camera with his hands clasped together. A computer mouse is visible on the desk in front of him.

掲載した施設や企業の特徴やサービス内容などを4回にわたって紹介する。